

平成29年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 教授

氏名: 山崎 眞紀子

研究課題		村上春樹研究および高橋たか子、須賀敦子、大庭みな子研究(1920年代～30年代生まれの女性作家研究)
報告の概要	研究目的及び研究概要	I. 村上春樹の最新作研究 長編作品『騎士団長殺し』が2017年2月に刊行、登場人物の女性に注目して作品分析を行う。 II. 高橋たか子研究、須賀敦子研究(1920年代～30年代生まれの女性作家研究) 1920年代～30年代生まれの女性作家の文学史上に果たす意味を明らかにする目的である。彼女たちは、アジア太平洋戦争時に思春期を迎え、敗戦後の価値観の転換の中で、結婚、出産など大きなライフイベントを迎える年代に遭遇した世代である。旧来通り、家庭に入ることを是とした生き方ではなく、自分の可能性を求めてもがいた作家たちであり、海外に赴き経験を拓けた。「書く」ことで自己実現を果たそうとした標記の女性作家の研究を行い、日本近代文学史の新たな視点を導入することを研究の目的とした。この研究は始めたばかりである。本年度は当初の計画を変更し、インタビュー機会に恵まれた1930年生まれの大庭みな子に焦点を絞った。
	研究成果	I. 村上春樹の最新作研究 7月に台湾の淡江大学・村上春樹研究センター主催の国際学会(同志社大学にて開催)で『騎士団長殺し』の研究発表を聴き、自らも日本近代文学学会支部で発表、理解を深めることができた。 II. 大庭みな子研究(1920年代～30年代生まれの女性作家研究) 大庭みな子デビュー作『三匹の蟹』の舞台となったアラスカ州の都市シトカおよび作品中に登場する先住民族のトーテムポールや歴史文化を調査するためにシアトルの博物館とジュノーの博物館に赴き、アラスカインディアンの歴史文化、大鳥の意味を理解することができた。シトカでは大庭みな子がかつて住んでいた家や日本語教諭として勤務していた小学校、彼女の夫・大庭利雄氏との勤務先である「アラスカパルプ社」跡地などを訪問し、かつて同社に勤務し大庭利雄氏とも親交があった女性Elaine Strelow氏にインタビューし、アラスカという文学空間を理解することができた。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	山崎眞紀子・石川照子・須藤瑞代・藤井敦子・姚毅著『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本——一九二六～一九二七年の中国旅行日記を中心に——』(研文出版・2018年2月)【平成29年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金・研究公開促進費<学術図書>、課題番号17HP5091)】全490頁、査読有
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	①日本大学国文学会大会研究発表「〈スリップする私〉笹野頼子・初期作品における方法——『タイムスリップ・コンビナート』を中心に——」2017年7月1日、日本大学文理学部3号館3505教室 ②日本上海史研究会発表「大橋毅彦著『昭和文学の上海体験』(勉誠出版・2017年3月)書評」2017年7月15日、日本大学通信教育部市ヶ谷キャンパス5F ③日本近代文学会北海道東北地区合同研究集会研究発表「村上春樹作品における〈妻〉——『騎士団長殺し』を中心に」2017年7月29日、函館・花びしほてる会議室
	・その他 *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等	①書評「柳美里『飼う人』書評」(毎週金曜日発売『週刊読書人』2018年2月9日号5面、3226号掲載) ②書評「小島基洋著『村上春樹と〈鎮魂〉の詩学』書評」(毎週金曜日発売『週刊読書人』2018年2月23日号、3228号掲載)